

筑波記念病院における医師の負担軽減及び処遇の改善に関する取組について

〔医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担〕

関連部署	項目	2023年度の取り組み	達成目標期日	2023年度以降の目標
看護部	特定行為研修終了者の増員	外来で予診ができるように、施設管理者の協力を得て、現場医師からの指導・相談体制を構築予定。PICCに関しては、協力医師への依頼実施中。	2025年4月	2025年4月までに6名増員し、8名体制とする。クリニック外来での予診とPICCによる活動を月～土実施し、医師の労務軽減につなげる。
薬剤部	入院患者待参薬の確認および、その継続指示・薬剤管理指導実施率の向上	緊急入院患者においても、服用薬剤や持参薬の確認を可能な限り実施して、医師への情報提供を行う。さらに、緊急入院患者の薬剤管理指導率を上げることで、医師との連携がはかれ、入院直後から円滑に安全な薬物療法が行えるようにして、医師の負担軽減を図る。	2024年3月31日	2023年4月に薬剤管理指導業務支援ソフトを導入した。これにより薬剤管理指導の記録に係る時間を短縮し、対患者の時間を増やして薬剤管理指導における質の向上を図り、医師の負担軽減に寄与できる業務を展開する。
リハビリ	リハビリテーション実施計画書の作成	当該計画書の作成について、医師、看護師等の多職種でリハビリテーション総合実施計画書を作成することとし、医師の指示の下、療法士が患者・家族等に説明を行うことで、医師の負担軽減を図っている。	2024年3月31日	電子カルテ等の情報技術を活用し、各種書類作成の円滑化について検討する
臨床検査部	各種検査分野の検査手引きを整備【2022年度からの継続】	新規検査項目などのお知らせを載せるだけでなく、医師に向けてのNEWSなども作成したい	2023年度中に更新	定期的な内容の更新を行う
	予約外の検査依頼への対応	超音波検査や術中モニタリングなど専門チームで業務を行っている。教育体制などを見直し業務の出来る人員を増やすことで、緊急時の対応を充実させる。	2024年度的人员状況を見ながら進めるので2024年度中に着手することを目標とする	専門知識と技術を身につける時期を、出来るだけ早めに行っていきたい。
	骨髄検査の報告書作成補助	血液内科医が細胞分画のカウントから報告書の作成まで行っている。臨床検査技師が細胞分画の補助を行えるようトレーニングを行う。	2024年度的人员状況を見ながら進めるので2024年度中に着手することを目標とする	細胞分画の行える人員を増やす。血液内科医との診断基準のすり合わせを行っていきたい。
	輸血部門の検査技師養成	輸血に関して適切なアドバイスや不適正使用に対しての是正などが行えるよう、研修会などへ参加し、知識向上を図る。	2024年度中	定期的に、医師や看護師などへの輸血研修を実施していく。
放射線部	画像診断の補助	診療放射線技師の業務拡大のための告示研修の受講と緊急時の体制整備。超音波検査士と検診マンモグラフィ撮影技師の資格取得者の増員。画像診断補助を行う診療放射線技師の勉強会の実施。	業務拡大の告示研修は2023年度3月までに技師25名のうち11名が修了予定。緊急時体制も今年度内に整備予定。超音波検査士は11月に2名受験予定。検診マンモグラフィ撮影技師に関しては9月に1名取得し来年度には1名受験予定。また、現在定期的に開催している各モダリティの勉強会を充実させ画像診断補助の強化を随時進める。	診療放射線技師の業務拡大のための告示研修受講者の増員による医師の負担軽減への貢献と緊急時における対応の整備。検査内容と被ばくの説明を行うための勉強会の開催。検査依頼医へ追加オーダーが必要時に助言を行うための技師の育成や環境の整備。
臨床工学課	心臓カテーテル検査のデータベース入力	データベースへの検査データを、入力可能な部分まで入力を行う	2023年度中	データベースへの入力できる技士を増やし、データの入力支援及び入力範囲の拡充を積極的に行っていく
	高度医療材料の清潔野での準備	清潔野で使用する高度医療材料のセッティングを行う	2024年度中	清潔野でセッティングできる技士を増やして介入できる手術の種類を増やしていく
栄養管理課	管理栄養士の病棟配置	・管理栄養士によるNST依頼の増加 ・各診療科ごとにNSTを行うことで治療に合った栄養管理を早くおこなっている ・消化器外科、救急科の回診に参加し、その際の食事変更代行を行っている	2023年4月1日～2024年3月31日	・各病棟に管理栄養士を1人以上常駐させ適正な食糧の選択、食事の調整、アレルギーの対応など食事、栄養に関わることは全て行い医師の負担軽減につなげる ・各診療科の総回診に参加し、その際の食事変更代行を行う
	栄養状態の維持・改善	スクリーニング実施し低栄養リスクのある患者を早期に発見、早急に廃用・褥瘡予防し早期の退院をめざす。	2023年4月1日～2024年3月31日	全入院患者にスクリーニング実施し低栄養リスクのある患者を早期に発見、早急に廃用・褥瘡予防し早期の退院をめざす。
医局秘書	資格申請のための書類作成	難病指定医や身障指定医申請手続きの下書きを医局秘書にて行う。	2024年3月31日	難病指定医や身障指定医申請手続きが可能な資格取得者に声かけをして申請手続きを行い、業務が一部医師に偏らないようにする。
医療秘書課	診断書・介護 主治医意見書・回答書・臨床調査個人票等文書作成代行業務	本年度、新人3名の増員があったため配属後6ヶ月研修期間中に容易な書類作成を習得させ、その分、医師に依頼していた難易度の高いものをスキルにあわせ代行していく。	本年度中	医療秘書を介している文書作成の代行率を毎月90%超えを目指す。(昨年は毎月85～85%)
	非常勤医師の診断書・介護 主治医意見書・回答書・臨床調査個人票等文書作成代行業務	原則として医療秘書へ依頼いただけるよう医事課へ周知し代行作成したものを外来時に確認していただけるようにする。	本年度中	外来診療に負担がかからないよう医事課と意見交換を行い、改善点を見いだす。
	退院サマリー作成代行業務	医師の意向を伺い、2023年7月より希望があった医師から順に代行作成を行う。	2023年7月より開始。希望者に対応する。	長時間勤務の医師を中心に代行できるようにしていく。
リクルートセンター	研修医(勤務医)の時間外勤務の軽減・研修医(勤務医)の住居探しのサポート・研修医勉強会のセッティング	研修医勉強会を勤務時間内に実施。資料準備、会場セッティング、フィードバック集計等のリクルートセンターが担い、医師の業務軽減に繋げる。また入職時や他院研修時での事務手続き、住居探し等をサポートを行う。	2024年3月31日	臨床研修医をフルマッਚするようリクルーティングを強化(HPの内容充実、対面またはオンライン説明会の参加等)、専攻医(勤務医)においても上記同様サポートを行う
地域医療連携室	紹介受入時の事務作業	人員を増員し、よりスムーズに診療に入れる体制を構築する	2023年度中	引き続き継続
	返書作成業務	退院時返書の作成が確認できない場合は地域医療連携室が退院サマリーおよび定型文の返書を作成し、紹介元の医療機関へ送付する。	2024年度	すべての紹介状について返書が作成される仕組みおよび、サポートを構築していく。
	診療情報提供依頼	医師からの申し出があれば、情報提供依頼文書の代行作成を地域医療連携室スタッフがやっている。	2021年度達成	引き続き継続
	地域への情報発信	医師が地域へPRしたい事について、ビラの作成および郵送を行っている。	2020年度達成	引き続き継続
	転院先の選定・仲介・交渉	引き続き紹介先検索を行っていく。	2021年度一部達成 2023年度継続	紹介先選定がしやすいように、地域医療機関の一覧、検索などが可能なツールを導入を達成したが、引き続きデータベースの整理をする
情報システム課	旧オーダリングシステムCISのクラウド化	旧オーダリングシステムCISを特定のインターネット端末から専用回線でクラウドでカルテ参照できるように構築。	2023年度内(12月末) 2023年7月CISクラウド化構築完了	今年度より、3人体制から1人体制で業務を行っているため、以前より負荷がかかっているが、対応の質やセキュリティが低下したと思われないう努力する。

〔その他の取組み〕

内容	達成目標期日	2023年度以降の目標
勤務計画、連続当直を行わない勤務体制の実施。	達成済み。以前から当直予定表作成者により連続で当直を組まないよう配慮されており、継続している。	引き続き継続
育児・介護休業法第23条第1項、同上第3項又は同法第24条の規定による措置を活用した短時間正規雇用医師の活用	達成済み。法令に遵守した基準で育児短時間勤務を導入し、実際にそれで運用されている者がいる。	引き続き継続。法改定にも対応していく。